学校番号	106

令和3（2021）年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

令和4年4月1日

学 校 法 人 電 波 学 園
ぎ ふ 国 際 高 等 学 校

令和3（2021）年度教育目標
―『信頼と期待』に応える学校であり続ける―
ぎふ国際高等学校

- 他人の気持ちを慮り、自他の人権を尊重し、誰もが安心して楽しく生活できる集団関係を醸成する。また感染症対策および災害対策等にも細心の注意を払い、臨む。生徒にとって安心・安全な学校のさらなる具現化を図る。
- 全職員がカウンセリングマインドを持って、個々の生徒の心理的状況や健康状態等を踏まえて、受容・理解・支援の指導に徹することを通じて、個々の生徒が教員から理解されているという思いを持てるようにする。。
- 生徒との良好な関係の構築を通じて、生徒自身の自己肯定感の向上を図り、「ほめる指導」を心がける。

- 社会の一員としての礼儀・社会常識・言葉遣い・協調性・社会貢献への主体的参加姿勢等を涵養する。問題行動の心理的背景及び生活状況に目を向けた「正しい方向に導く支援」を心がける。

- 守るべき規律・規範を明確にし、生徒の主体的遵守を促すべく指導すべき内容について職員の共通理解・共通指導を徹底させる。

- ユニバーサルデザイン授業の推進による、「わかりやすい面接指導（授業）」の確立、報告課題の遅滞ない提出、および自学自習という通信制の意味の本質的理解を図るとともにきめ細かい少人数（個別）学習指導も必要に応じて実施する。
- 個に応じたきめ細かい学習支援を行い、基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育み、学ぶ喜びが感じられるよう主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。また学び直しや特別講座、資格取得講座のさらなる充実を図る。
- 1年次からの進路指導やキャリア教育の量的・質的向上を通じて社会性／コミュニケーション能力の向上を図り、適性や長所等の自己理解に基づく適切な進路決定の実現に向けて、指導の充実を図ることで進路未決定者を減らすとともに、本人・保護者の納得のいく進路へ導く。そのためにキャリア・パスポートの作成や3年間の道筋に留意した指導を行う。
- 自己の生活・健康・安全・環境についての意識を高め、自己管理力の育成を図る。

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	**学校経営全般**
2	今年度目標	① 各教員のさらなる資質（特に教育相談に関する）向上。 ② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を進める。 ③ ICT機器・タブレット・電子黒板ペンタブレットを活用した授業の研究と実践を行う。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 発達障がいや青年期の特性を知るための職員研修や講習会を実施する。 ② タブレットによる学び直し（Thanksドリル）の授業の研究と実践を行う。 タブレットによる調べ学習、課題の書き込みやアンケートに活用する。 ③ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、 更に理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教員研修：「発達障がいの理解」講師 いかわクリニック院長井川氏 講演会：保護者会総会後「青年期の特性を知る」講師 岐阜聖徳学園大学の高村教授 ケース会議を含んだ教員研修を年3回実施することができた。	A
		② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行い、わかりやすい授業になるよう努めた。	A
		③ プロジェクター、タブレット、電子黒板などのICT機器を活用した授業の実施。 姉妹校専門学校による職業実践を念頭においた体験学習をおこなった。	A
		④ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対して、ホームページやSRメールを活用し、常に情報発信に努めた。	A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① あなたは、学校の教育目標や教育方針を理解していますか。 （アンケート） そのように思っている 57.8%、多少はそのように思っている 32.4%、 あまりそのように思っていない 5.1%	A
		② 個性によるクラス分けが行われていることにより、お子様は居場所を得ることができていると思いますか。 （アンケート） そのように思っている 59.2%、多少はそのように思っている 28.6% あまりそのように思っていない 6.3%	A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 落ち着いた雰囲気で授業を受けことができ校内も落ち着いている。	A
		② プロジェクター、タブレット、電子黒板等のICTを活用した授業や補習講座により基礎学力が定着できた。	A
		③ 校内LANによるライブ配信の講演会・講習会や卒業式の様子を後日オンデマンド配信することができた。	A
		④ 生徒からの相談などに対して教員が適切に対応している。	A
		⑤ 中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。	A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 各教員のさらなる資質（特に教育相談に関する）向上。 ② インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の更なる研究と実践を進める。 ③ ICT機器・タブレット・アップルペンシルを活用した授業の研究と実践を行う。 タブレットによる学び直し、調べ学習や課題の作成など生徒が自ら学ぶ力の身に着けさせれるよう、研究と実践を行う。 ④ アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組む。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教務（教育課程・学習指導）
2	今年度目標	① 基礎学力の定着を基盤に、個に応じたきめ細やかな学習支援を行う。 ② 思考力・判断力・表現力の育成を意図し、学ぶ喜びを感じさせながら自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 ③ 観点別評価に対して、具体的な目標と評価基準を教科ごとに決め、学校としてまとめる。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① ICT機材やデジタル教科書を利用した、理解しやすい授業内容を研究する。 ② Thanksドリルの活用を勧め、基礎学力のアップを目指す。 ③ 外国籍生徒や低学力生徒を中心とした、少人数で定期的な補習の実施を検討。 ④ 本校の目指す生徒像と生徒の現状を鑑み、各教科で観点別評価をするためのめく表設定と評価基準を話し合いの上策定。それをまとめ学校全体のバランスを整える。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① ICT機材やデジタル教科書を利用した、理解しやすい授業内容を研究する。 ② Thanksドリルの活用を勧め、基礎学力のアップを目指す。 ③ 外国籍生徒や低学力生徒を中心とした、少人数で定期的な補習の実施を検討。 ④ 本校の目指す生徒像と生徒の現状を鑑み、各教科で観点別評価をするためのめく表設定と評価基準を話し合いの上策定。それをまとめ学校全体のバランスを整える。	A B C B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 授業内容が生徒の状況に合わせて工夫されている。 ② レポート内容が適切である。 ③ 計画的に課題に取り組んでいる。 ④ 家庭学習に継続的に取り組めている。	A A A B
6	総合的に捉えた成果・課題	① 殆どの授業で、ICT機器を使い視覚に訴えた授業を展開できている。また、映像配信についても授業研究を進めることができ、マイクの位置、伝えたいものの明確化など課題も見つかっ ② 各教室に配備されているタブレットも、授業やLHRでの使用回数が増えているが、使用頻度を上げることや、画像配信や意見の集約など、より良い使い方の研究が必要である。 ③ Thanksドリルの活用をもっと進め、継続的な学習と基礎学力の向上を目指したい。 ④ 低学力、外国籍の生徒のニーズをとらえ、必要なサポートができる体制はまだつくられていない。 ⑤ 新学習指導要領がスタートするにあたり、観点別評価の具体的な基準を学校として作成することができた。	A B B C A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 観点別評価を実際に行う中で、生徒の現状を把握し、継続的に授業内容や評価方法の改善に務める。また、学校として足並みがそろうように、研修を継続的に行う。 ② 生徒の現状やニーズから、対面での授業を基本としている。しかし、オンラインでの授業や、低学力の生徒の復習用に映像配信も、今後より良い学習環境を提供するため、研究課題として取り組む。 ③ タブレットを使用し、映像や課題を配信することや、意見の集約方法を複数の教員で研究し、試行してみる。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	**生徒指導**	
2	今年度目標	① 守るべき規律・規範を明確にし、生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② ボランティア活動等への参加を促す。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 登校指導を行う中で、生徒の様子に気を配り、声掛けや、服装など乱れがある生徒にも指導する。 ② 頭髪違反生徒に対して期限を決めて改善指導を行う。 ③ 職員連絡会において、生徒の動向から改善するべき内容を発表し、職員の共通理解と指導を求める。 ④ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動も積極的に行い、交通安全推進活動や地域の運動会・文化祭、清掃活動を行う。 ⑤ いじめアンケートを3回行い、防止と把握に努める。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 登校指導を行う中で、生徒の様子に気を配り、声掛けや、服装など乱れがある生徒にも指導した。 ② 頭髪違反生徒に対して期限を決めて改善指導を行った。 ③ 職員連絡会において、生徒の動向から注視すべき内容を共有し、職員の共通理解と指導を求めた。 ④ 生徒会活動に加え、MSリーダーズ活動も積極的に行い、交通安全推進活動や地域の運動会・文化祭、清掃活動を行った。 ⑤ いじめアンケートを3回行い、防止と把握に努めた。	B B A B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 生徒アンケートでは校則遵守・いじめ台頭について8割程度の高評価を得ることができ、大変良い結果であると思われる。 ② 保護者アンケートに於いても生徒指導について9割超、いじめ対応についても7割近い高評価をいただいた。 ③ 保護者アンケートにおける、いじめ問題への対応について「良い」割合が生徒よりは低い。本校の取り組みを積極的に発信していく必要がある。	A A B
6	総合的に捉えた成果・課題	① おおむね校内には落ち着きがあり、目標とする生徒像から逸脱した行動をとる生徒は一部である。 ② 継続した指導しているが、あまり改善が進まない生徒が数名いる。 ③ 懲戒指導を行った件数が0件であった。	B B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 全職員が継続して指導することで守則を生徒が主体的に遵守していけるよう、職員の共通理解・共通指導を徹底させる。 ② MSリーダーズの諸活動（交差点での交通安全運動、落ち葉集め、他）を通して地域に貢献する。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教育相談	
2	今年度目標	① 全職員がカウンセリングマインドを大切にした教育相談を心掛け、受容・理解・支援を基とする細やかな指導を進める。 ② 生徒の個別支援計画や生徒情報を把握し、個々の生徒の実態・状況に即した指導を進める。 ③ 生徒指導・教育相談・養護教諭・臨床心理士・担任 の連携体制の充実を図る。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 担任による個別教育相談を定期的に実施する。 ② 学年指導記録に生徒情報を継続記録し、ケース会や日々の指導に生かしていく。 ③ 得た情報をもとに、必要に応じて適切な関係機関で共通理解し、より良い方向へ進める。 ④ 年3回の教育相談研修会を充実させる。 (とくに1年次生は7月の会を今後の指導につなげていく。)	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 各担任や心理士から情報を得ながら、指導を継続することができた。 ② 教育相談記録は、今年度から記入の方法など共通理解して進めることができた。 ③ 年3回の教育相談研修会の持ち方を工夫した。	A A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 学校は配慮や支援が必要な生徒に適切な対応や指導を行っている。アンケート（生徒）約85%（保護者）約70% ② 心理士や養護教諭がいるので学校生活に安心感がもてる。アンケート（生徒）約85%（保護者）約70% ③ 学校（担任）は様々な面で子どもの困りごとなどを理解しようとしている。アンケート（生徒）約95%（保護者）約67%	B A A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 日々の指導体制から、教員のカウンセリングマインドへの意識はさらに高まっている。 ② 担任・心理士・養護・教育相談の連携体制については、さらに教育相談担当が中心となり進める必要がある。 ③ 年3回の交流と振り返りの会は有意義だった。	A B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 担任・心理士・養護・教育相談の連携体制については、さらに教育相談担当が中心となり進めていく。 ② 研修の会の内容をさらに充実させる。 ③ 各学年の指導記録は、形とともに、中身を充実させる。 ④ 外部研修会への参加の機会を増やしていく。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	進路指導
2	今年度目標	① キャリア教育計画において各年次の到達目標を明らかにする。 ② 進路指導行事において「コミュニケーション力」の養成を掲げた活動を目指す。 ③ 「進路適性」を意識しながら進学・就職を実現するキャリア指導を心がける。 ④ 「キャリアパスポート」を活用して、学習目標や行動履歴を具体的に明らかにする。 ⑤ 各種検定受験及び合格指導を強化する。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 常に各自の将来の「キャリア」を意識できるように、進学・就職の広報活動を行う。 ② 姉妹校の出前授業等を通して、学修内容や就職結果を知ることで、姉妹校進学後の学習意欲をより高める。 ③ 「キャリアパスポート」や「進路適性検査」を通して、日常の学習とキャリア学習を連動させる。 ④ 就職情報や求人案内等が、より早期に実践的に理解できるように、面接指導等の強化を図る。 ⑤ 資格取得学習と基礎学力向上が効果的に結びつくように、「Thanks Drill」の学習を勧める。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① キャリアパスポートに「キャリア教育計画」を明示して、生徒に課題意識を促し、ThanksDrill取り組みの指導に役立てた。 ② 進路指導行事は、対面指導を避けてweb活用が主なものとなったが、専門課程講座では外部の大学・専門学校や企業との交流を積極的に図った。 ③ 進路適性検査や各種情報誌の提供を通じて、進路選択への意識向上を図り、資格取得への意欲に結びつけることができた。 ④ LHRにおいて、生徒にキャリアパスポートを記入させることで、キャリアパスポート記入を習慣化させ活動履歴の意識化を強化できた。 ⑤ 「進路だより」を活用して、資格取得と進学・就職の目的達成への道筋を明らかにして、資格取得への意識向上を図った。	A B A A B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 「進路だより」等で、情報提供に努めたが保護者アンケート結果によると、確実に保護者まで行き届いていないと感じる保護者もいる。SRメールやHPを利用してさらに情報提供の強化を図りたい。 ② 令和2年度同様に3年次生の「進路説明会」は、時間短縮で行った。短時間での情報共有は難しいので、web活用などオープンキャンパス参加を来年度は積極的に促していきたい。 ③ 日本学生支援機構の奨学金申請者は、45名であった。2回の土曜日入力日を設けるなど、保護者への情報提供に役立てた。1，2年次の進路説明会においても、奨学金に関する説明を検討していきたい。 ④ 生徒アンケートによると、「学校は進路設定に向けて情報提供を適切に行っている」に関して「そう思う」「多少そう思う」と考えている生徒は90.3%（保護者は、81%）であった。さらに向上を図りたい。	B B A A
6	総合的に捉えた成果・課題	① 進路決定率87.3%（昨年度79.8%）となり、卒業のみの割合が減った。個別指導の強化と2月末までの最後まであきらめない支援が功を奏したと思われる。 ② 就職決定者は、進路決定者の20.4%となり、前年比+1．4%となった。指定校のみならず公開求人の積極的な挑戦が良かったと思われる。 ③ キャリアパスポートを積極的に活用して、資格取得とThanks Drill学習連携強化を図り、Thanks Drill進捗状況表を配付して、冬期休業後に提出させた。	A A A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 学習指導要領の改訂より学力指標が変わり、表現力や思考力への対応が急務である。進路指導においても、学力向上及び各試験合格への具体的な取り組みが必要である。 ② コロナ禍の影響も3年目に入り、遠隔から徐々に対面になっていくことが予想される。生徒にとっては、戸惑う場面も出てくると思われるので、丁寧な指導を心がけていきたい。 ③ 面接授業の充実とともに、資格取得・Thanks Drill学習・進路選択の連携は、「キャリアパスポート」の活用とともに、指導の中心であるので、その指導強化を積極的に図りたい。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	特別活動
2	今年度目標	① (学校行事・社会研修分野) コロナ禍の情勢に留意しながら、安全な研修を実施できるようにする。 ② (学校行事・社会研修分野) 生徒が自分で課題を見つけ、学べる内容で実施する。 ③ (LHR) 総合的な探究の時間と連動するかたちで、省察を深める時間としたい。 ④ (修学旅行) コロナウィルス感染症の状況を鑑みながら、安全に遂行できる方策をとりながら進めていく。 ⑤ (異文化体験研修)
3	目標達成に向けての取り組み方法	① (学校行事・社会研修分野) 各家庭に参加についての確認、アンケートを取り参加人数に合わせたバス台数や行き先を策定し、当日までのコロナ対策の徹底をする。 ② (学校行事・社会研修分野) 事前指導において個別の目標設定をさせ、現地で学ぶことの意味や狙いを生徒本人が理解し、策定できるような教材・資料の用意をする。 ③ (LHR) 年間テーマの設定に加え、個々の開講時における目標を設定し、その達成を心がける。 ④ (修学旅行) 参加生徒に対しては、コロナウィルス感染症対策の徹底を図る。見学地等の事前学習を行い、より充実した旅行にする。 ⑤ (異文化体験研修)

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① (学校行事・社会研修分野) 例年の行程を変更する、間隔を開けたバスの座席配置をするなど、コロナ感染対策を十分にとって実施することができた。 ② (学校行事・社会研修分野) 資料等を用意することはできなかったが、アクア・トトぎふなど生徒が過去に訪れたことがある見学地であったのか、興味を持って活動していた。 ③ (LHR) 年間のホームルーム計画を期始めに策定し、それに伴って資料等を用意し、実施した。 ④ コロナウィルス感染症対策を徹底的に行い、参加生徒全員、健康でとても有意義な旅行であった。	A B A A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 学校行事全般に関して80%以上の生徒・保護者が「有意義と思われる特別活動を実施している」と肯定的にとらえ、回答した（「そう思う」、「多少はそう思う」の合計）。	A
6	総合的に捉えた成果・課題	① (学校行事・社会研修分野) 近場での研修ということで時間的にゆとりがあり、楽しめたように思われた。 ② (学校行事・社会研修分野) 自分でテーマ設定をし、探求を深めるという部分が不充分であった。 ③ (LHR) 単なる連絡会に留まらない充実した内容にすることができた。昨年度と重複する内容があった点は検討の余地がある。 ④ コロナウィルス感染症が心配される中催行されたが、定期的な検温・消毒等をしっかり行い、とても充実した旅行であった。	B C B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① (学校行事・社会研修分野) コロナウィルス感染症の感染状況が改善されれば姉妹校の体験学習を再開したい。 ② (学校行事・社会研修分野) 自分で課題を見つけることが苦手な生徒が多いので、教員がヒントを与えながら気づかせる。 ③ (LHR) 3年間のトータルの計画の充実を図り、仕上がり像に向けての方策を練っていきたい。 ④ コロナウィルス感染症の状況を鑑みながら、より安全な対策を講じて進め行きたい。	

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	① 自己の健康生活・安全・衛生環境についての意識を高め、自己管理に繋げる保健指導を行う。 ② 学校内での情報共有・連携を円滑にし、個に合わせた適切な生徒対応を行う。 ③ 保健教育・指導について講習会や講話を実施できる方法で行い、正しい知識を持ち行動できるように繋げる。 ④ 校外機関から得られる情報を活用する。（保健だより作成やリーフレット、ポスター掲示等）	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 職員間で情報共有をし、その子の学校生活全体を見て、保健室での対応を考えることができるようにする。 ② 講習会や講話を実施できるように、関係機関と連携をとりながらすすめる。 ③ 学校薬剤師等の講師と連携をとり、講話・講習を実施する。また「保険だより」の発刊等を通じて生徒の注意喚起・啓蒙に努める。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 校外機関からの掲示資料や保健だより（ホームページ）により健康管理についての知識について関心をもてるように働きかけた。特に感染症に関しては、正しい情報での通信作成に努 ② 理由に関わらず来室者の話を聞くことに努め、少しでも安心できる場となるように心掛けた。また、担任・教育相談・心理士と情報を共有できるように努めた。 ③ 講演会の内容については、事前に講師と連絡を取り合って実施した。実施後の生徒の反応を講師にも伝え来年度の参考にしたい。	B B A
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 保護者に心身の健康維持に対する指導が適切に行われていると感じてもらえるよう取り組む必要がある。	B
6	総合的に捉えた成果・課題	① 外部機関から得られる情報を基に、保健だよりを通して適切に情報発信することができた。 ② 保健室利用時の生徒の状況や健康管理票に基づく生徒の健康状態の動向などを職員間で情報共有することに不十分な部分があった。 ③ 保健室に来室する理由によっては、臨床心理士の先生に繋ぐことができた。	A B A
7	次年度に向けた改善策・目標	① 学校安全計画・学校保健計画を基にし、保健活動を的確に行い、さらなる情報発信を心がける。 ② 担任の先生や心理士、教育相談担当教員と連携し、個に応じた対応ができるように努める。 ③ 本人はもちろん、保護者にも生徒の健康状態で心配な点があれば連絡をとり、家庭との繋がりをもてるようにしたい。	

※評価 A･･･十分達成した　B･･･おおむね達成した　C･･･やや不十分　D･･･不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校図書	
2	今年度目標	① 図書室整備（蔵書管理・美化、など）。 ② 生徒の利用頻度の向上。 ③ 部活動（図書部）の充実。 ④ 新規購入図書の選定。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 利用しやすい図書室を目指し、書架への図書の配列等を見直す。 ② 図書部の活動の充実のための方策を検討する。 ③ 図書部員との連携によるPOPづくりや図書だよりの発刊など生徒の耳目を集める活動を行う。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 書架の購入により分類番号順・著者順の配架が可能となり、蔵書が探しやすくなった。 ② モニターを活用し、図書の貸し出し状況等が確認しやすくなった。 ③ 蔵書の逸失チェックの結果、不足している蔵書が散見される状況となった。	A A D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 特記なし（設問の中に図書室に関するものがないため）。	
6	総合的に捉えた成果・課題	① 図書室の利用者数・貸し出し冊数とも増加傾向にある。 ② 七夕の短冊つくりや学校祭でのビデオ上映・しおりづくりなど、生徒が参加しやすいイベントを少しずつではあるが実施することができた。	B B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 新刊図書を中心に蔵書紹介を充実させる。 ② 他の図書館の推薦図書等を参考に購入選定図書の充実を図る。 ③ 利用者増／貸し出し冊数増を目指して、広報活動のさらなる充実を目指す。 ④ 図書館専用選書発注サイトの導入により円滑な図書購入計画の実行・発注を実施する。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	渉外（生徒募集）
2	今年度目標	① 本校が求める生徒像・本校がめざしている学校像を、中学校（特に3年生担当教師）・中学生とその保護者・関係諸機関に、より広く理解してもらう。 ② 中学校との信頼関係を深めるために、春と秋の中学校訪問や日常の相談活動を充実させる。 ③ 年に8回の学校見学会や個別見学において、教育相談的な対応で行う。 ④ 春と秋には、中学校訪問を行う。 ⑤ 中学校や教育機関（不登校教室、教育委員会 等）からの進路（または高校）説明会への参加要請には、積極的に応える。
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 不登校や不登校傾向にあった生徒が、新たな気持ちで個々の目標の実現に向けて明るく過ごしている姿を伝え、本校が果たしている役割の具体的な内容を理解してもらい、進路状況と併せて本校の特 ② 本校に在籍している生徒の様子・卒業した生徒の進路状況を中学校訪問で伝え、具体的な生徒の姿を通して相談活動を行い、信頼関係を深められるようにする。 ③ 職員共通のマニュアルを作り、受容的・共感的に進められるようにする。 ④ 学校見学会・個別見学での様子を伝え、本校と中学校それぞれの指導に生かせるようにする。 ⑤ より多くの中学生・その保護者に、本校について知ってもらえるようにする。

			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 学校案内パンフレットも活用して、本校生徒の具体的な姿を分かりやすく伝えることができた。 ② 中学校訪問の折には、担任から受けた本校での活動の様子や活躍の姿を伝え、相談活動に生かすと共に、本校への信頼を得られるようになった。 ③ 見学会や個別見学での生徒の様子を伝えたり、中学校からの問い合わせに丁寧に対応したりして、情報の共有を進めることで信頼関係を築くことができた。 ④ 見学会や個別見学会での生徒の様子を中学校と共有することで、学年主任・進路指導主事との関係を深めることができた。 ⑤ 中学校や適応指導教室での進路（高校）説明会に参加したから見学会に申し込んだという事例が増え、生徒募集に役立てられている。	B B B B B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価		
6	総合的に捉えた成果・課題	① 学校案内パンフレットを見て、本校で新しい気持ちで取り組んでいる生徒の姿に励まされ、希望を持って見学会に参加したという生徒が多くなっている。 ② 不登校生徒・不登校傾向の生徒の進路先として広く認識されるようになっており、中学校での進路指導に生かされている。 ③ 中学校からの問い合わせや生徒・生徒の保護者からの問い合わせが、より具体的で切実なものとなってきている。 ④ 中学校からの問い合わせが日常的になってきており、学年主任・進路指導主事との連携を進めることができている。 ⑤ 要請件数が少しずつ増えている。	B B B B B
7	次年度に向けた改善策・目標	① 本校への期待が高まるような学校案内パンフレットの作成をする。 ② 中学校との関係を深めたり強めたりすると共に、信頼を高める中学校訪問や相談活動を行う。 ③ 見学会に参加した生徒の姿（情報）を、より詳細に把握できるように努める。 ④ 本校へ進学して活躍したり努力している生徒の姿を具体的に伝え、本校への信頼をより高められるような訪問活動を行う。 ⑤ 要請に積極的に応える。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

令和3（2021）年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	事務	
2	今年度目標	① 経費節減と予実管理。 ② 昨年度評価の下がった対応の改善を意識し、日々、生徒、保護者、来訪者への対応を考える。 ③ 職員の異動により、全員が新しい業務に取り組むこととなった。管理監督者もかわり、その指導の下業務遂行する。 ④ 教職員間の情報共有。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 経費、予算とも毎年の目標である。自身も含めて全教職員に意識付けをしたい。 ② 相手の言うことをよく聞き、相手が何を望んでいるか、相手に寄り添う気持ちを第一とした対応を考えたい。 ③ まずは前年度までの業務処理の分析と理解をする。次に新監督者の指示に沿った処理を覚える。習うより慣れろ、の意識も持ちたい。 ④ 連絡会などを利用して必要な情報を伝える。	
			評価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① おおむね予算に沿った執行ができた。教職員全般に向けた予実への意識付けも少しずつだが進んでいると感じる。 ② 日々の業務遂行により経験を積んでいった。親切で分かりやすい対応をさらに心がけていきたい。 ③ これまで未経験だった業務に挑戦した。今後も継続し、様々な業務を経験し、全員が全部の業務をできる状態に持っていけるとよい。 ④ 情報のやり取り、共有は常に心がけることができた。	B B B
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 今年度も80%を超える良い評価をいただけてよかった。 ② 問い合わせなどに対する分かりやすい説明、親切な対応などにまだ足りないと感じることがあり、反省点である。 ③ 文書作成においても簡潔、明瞭であることをさらに目指したい。	B C B
6	総合的に捉えた成果・課題	① 事務処理の効率化、省力化を図ること。 ② 受付の対応、電話の対応を見直すこと。 ③ 親切な対応を考えること。 ④ 正確で分かりやすい案内、連絡の仕方を考えること。 ⑤ 経費節減に継続して取り組むこと。	B B B C B
7	次年度に向けた改善策・目標	① より分かりやすい文書の作成。 ② さらに親切・丁寧な対応を考える。 ③ 業務分担の再検討。 ④ 勤務時間内に業務を終える。	

※評価 A・・・十分達成した　B・・・おおむね達成した　C・・・やや不十分　D・・・不十分

R2保護者による評価

次の項目について、Ａ～Ｅの該当する欄に〇印を付けてください。
５．よくあてはまる　４．ややあてはまる　３．あまりあてはまらない　２．まったくあてはまらない　１．わからない

度参考資料

通番		項目	評価				
			5	4	3	2	1
教育方針・学校経営	1	学校の教育方針（個性によるクラス分け等）や指導の内容に共感できる。	43.0%	43.0%	7.4%	1.1%	5.6%
	2	学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	23.8%	48.6%	15.1%	1.4%	11.1%
	3	子どもは現在の学校やクラスの雰囲気に馴染めている。	24.2%	44.8%	21.7%	3.3%	6.0%
	4	学校（担任）は様々な面で子どもの困りごとなどを理解しようとしている。	32.4%	44.5%	10.2%	1.4%	11.5%
	5	臨床心理士や養護教諭がいるので学校に対し安心感が持てる。	38.7%	44.8%	11.8%	0.8%	3.8%
	6	学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	41.4%	44.9%	8.8%	1.9%	3.0%
教職員	7	保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	54.1%	38.2%	4.9%	0.3%	2.5%
	8	子どもに接する時の教職員の態度は適切である。	41.9%	38.9%	8.8%	1.1%	9.3%
	9	事務職員による学納金等の事務説明が明確であり、電話等での対応も丁寧である。	48.1%	36.5%	7.4%	1.4%	6.6%
学習指導	10	学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	25.2%	48.5%	13.4%	1.6%	11.2%
	11	教員は熱心に学習指導（授業・補習）を行っている。	29.1%	42.6%	11.8%	1.4%	15.1%
	12	教員は全ての子どもが理解しやすい授業を行っている。	18.7%	40.4%	16.5%	1.6%	22.8%
	13	教員は子供の学習に対する理解度を把握しようとしている。	18.9%	43.6%	14.5%	2.2%	20.8%
	14	レポート作成など家庭学習が定着してきた。教員によるレポート添削や助言も的確かつ丁寧で、生徒の意欲を高めている。	24.2%	47.8%	13.2%	1.6%	13.2%
生徒指導	15	学校はマナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	30.2%	50.8%	9.6%	0.8%	8.5%
	16	学校は服装、頭髪等の指導を適切に行っている。	33.2%	49.3%	8.2%	1.1%	8.2%
	17	学校はいじめや対人トラブルが発生しないための指導や対応を行っている。	30.1%	45.8%	8.5%	0.5%	15.1%
	18	学校は自転車運転、バイクや自動車の運転免許の取得制限など、交通安全指導を行っている。	34.8%	38.9%	9.0%	0.5%	16.7%
	19	地震や台風などの非常災害時における対応策が子どもや保護者に理解されている。	35.2%	48.6%	10.7%	1.4%	4.1%
進路指導	20	進路選択に関わる情報提供が十分になされている。	19.5%	47.1%	18.6%	2.5%	12.3%
	21	学校は進路説明会などを適切に行っている。	26.8%	46.6%	12.3%	1.9%	12.3%
	22	担任は子どもの将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を行っている。	21.6%	44.4%	14.2%	1.6%	18.1%
学校行事等	23	学校は有意義な学校行事（始業式・終業式・学校祭等）を実施している。	30.8%	46.4%	11.0%	3.0%	8.8%
	24	学校は有意義な校外学習（社会研修・専門学校での体験学習等）を実施している。	25.5%	47.0%	12.4%	3.8%	11.3%
	25	学校は生徒会活動の活性化に積極的である。	16.2%	37.3%	13.4%	2.2%	31.0%
	26	学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	17.6%	41.5%	14.6%	1.6%	24.7%
健康管理	27	生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	35.0%	49.0%	7.7%	1.1%	7.2%
家庭との連携	28	学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	48.9%	36.1%	10.4%	2.2%	2.5%
	29	学校（担任）と保護者との連携はしっかりとれている。	27.7%	46.0%	14.8%	3.6%	7.9%
	30	子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	26.8%	38.0%	27.6%	6.0%	1.6%
その他	31	本校の保護者会は生徒の実情に応じた有意義な活動を行っている。	19.8%	35.3%	12.1%	1.4%	31.4%

R2生徒による評価

次の項目について、Ａ～Ｅの該当する欄に〇印を付けてください。

５．よくあてはまる　４．ややあてはまる　３．あまりあてはまらない　２．まったくあてはまらない　１．わからない

度参考資料

通番		項目	評価				
			5	4	3	2	1
教育方針・学校経営	1	学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	32.4%	43.7%	13.5%	1.2%	9.2%
	2	個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	47.3%	33.9%	10.8%	1.6%	6.4%
	3	学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	31.1%	36.1%	17.2%	3.8%	11.8%
	4	学校（担任）は様々な面で生徒の困りごとなどを理解しようとしている。	55.9%	29.5%	7.1%	2.1%	5.4%
	5	臨床心理士や養護教諭がいるので学校に対し安心感が持てる。	42.5%	30.4%	12.5%	3.1%	11.6%
	6	学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	52.9%	32.0%	8.0%	3.1%	4.0%
教職員	7	先生に親しみやすさを感じている。	50.2%	34.4%	11.3%	1.4%	2.6%
	8	先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	55.9%	29.7%	6.1%	0.9%	7.3%
	9	事務職員の対応は親切・丁寧である。	56.0%	28.2%	7.3%	0.9%	7.5%
学習指導	10	理解しやすい授業が行われている。	37.5%	42.2%	15.3%	2.4%	2.6%
	11	先生は熱心に授業を行っている。	49.3%	35.8%	8.3%	1.9%	4.7%
	12	落ち着いた雰囲気で授業を受けることができている。	64.7%	26.4%	5.9%	1.4%	1.6%
	13	基礎学力が身に付いてきたと感じている。	27.4%	41.5%	17.7%	4.7%	8.7%
	14	総合的な学習の時間の内容は有意義である。	29.5%	36.3%	19.6%	5.2%	9.4%
	15	レポート作成に積極的に取り組むことができた。教員は丁寧かつ、わかりやすいレポート添削や助言をしてくれている。	48.8%	34.1%	10.7%	2.1%	4.3%
生徒指導	16	社会規範を身につけるようにとの指導を受けているため、安心・安全な学習環境が築かれている。	49.5%	33.9%	8.1%	0.9%	7.6%
	17	学校全体として、服装、頭髪等の生徒守則が守られている。	44.1%	34.7%	10.1%	4.2%	6.8%
	18	学校はいじめや対人トラブルが発生しないための指導や対応を行っている。	48.5%	27.7%	5.9%	1.7%	16.3%
	19	学校は随時、交通安全指導を行っている。	32.5%	29.5%	16.5%	4.2%	17.2%
	20	地震や台風などの非常災害時における対応策を理解している。	42.5%	37.5%	8.7%	1.4%	9.9%
進路指導	21	進路選択に関わる情報提供が十分に受けている。	37.1%	38.1%	12.1%	3.1%	9.7%
	22	進路説明会の内容は満足できるものである。	31.0%	30.5%	14.7%	2.6%	21.3%
	23	将来の希望や適性に沿った具体的で適切な進路指導を担任から受けている。	31.8%	31.5%	18.1%	4.0%	14.6%
学校行事等	24	新たな気持ちが持てるような式典（入学・始業・終業）が行われ、学校生活に楽しみが持てる学校祭が行われている。	32.7%	29.6%	21.4%	6.6%	9.6%
	25	現在の校外学習（社会研修・専門学校での体験学習等）に充実感を感じている。	23.3%	30.7%	19.3%	7.5%	19.1%
	26	学校は生徒会活動の活性化に積極的である。	25.7%	29.5%	16.7%	3.8%	24.3%
	27	学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	33.4%	34.1%	12.9%	2.8%	16.7%
	28	部活動が活発に行われている。	17.9%	24.7%	16.0%	6.6%	34.8%
健康管理	29	健康診断や保険だよりなどを通して、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	42.6%	38.3%	11.6%	2.1%	5.4%
家庭との連携	30	学校からの連絡文書等は、保護者に確実に渡している。	47.6%	29.7%	15.6%	3.5%	3.5%
	31	家庭で学校でのことをよく話す。	31.8%	27.4%	24.3%	11.6%	5.0%

2021年度（令和3年度） 学校関係者評価委員

令和4年4月16日

委員名簿

役職	ご芳名
朝日大学	村橋 剛史 様
参与	石川 宗一郎 様
木ノ本自治連合会会長	古澤 豊吉 様
坂井町町内会長	井桁 清彦 様
ぎふ国際高等学校保護者会会長	川口 美子 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	八代 千彰 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	菊地 義則 様
ぎふ国際高等学校保護者会副会長	鷲住 由美子 様
学校長	柴田 一弘
教頭	伊藤 学
教頭	仲野 哲
本校 教務責任者	本田 知彦
本校 生徒指導責任者	味岡 晴奈
本校 進路指導責任者	北川 邦夫
本校 特別活動責任者	堀 岳彦
本校 養護教諭（保健指導担当）	山本 安菜
本校 事務責任者	木村 一弘
本校 学校関係者評価委員会担当	馬場 学

令和3年度 ぎふ国際高等学校学校関係者評価表

学校名：ぎふ国際高等学校

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.5 実態を的確に把握し、教育目標をどのように実現できるかを考えて、概ね適切な取り組みが行われている。
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.5 目標は現状に沿って適切に設定されている。達成についてはC評価の項目もあるが、全体としての達成度は十分であると考えられる。
3. 次年度への主な課題の把握について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.7 常に現状を的確に把握するように努められており、適切な現状認識ができている。今年度の達成状況を深く分析し、それに基づいて適切な課題設定が行われている。
4. 改善方策の策定状況について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.5 概ね課題に沿った方策が策定されているが、やや具体性に欠ける項目もある。また、課題が生じた原因をより分析することで、より適切な改善策が策定できると考えられる。
5. 「目指す学校像（生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒〔保護者〕が安心して通う〔通わせる〕ことが出来る学校）」について	4 十分達成している 3 どちらかといえば達成している 2 どちらかといえば達成していない 1 達成していない	評価の平均 3.7 生徒の観察や生徒・保護者からの声を吸い上げる仕組みが、概ねできており、通学が難しいという状況はみられない。授業も課題等はううむね提出できている。

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校名：ぎふ国際高等学校

1 学校目標

・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

学校目標に対する評価・意見

おおむね子供達は達成出来ていると思います。
在学する生徒の特質に合った適切な目標であると考えられる。
不登校だった生徒が中心であるため、まず基本的な生活習慣や適切な規範意識を確立し、セルフ・コントロールができるようにすることが大切である。
それとともに他者とのかかわりを通じて社会性を身につけることが、特に卒業後大人として社会に出ていく求められる。その第一歩が他者への思いやり、他者への人格尊重だと考えられる。
求められる社会人を育てる上で、大切な事柄が含められている良き目標に思う。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1（教育理念・目的・育成人材像等）	3.8	3.8	3.8
基準2（学校運営）	3.8	3.8	3.8
基準3（教育活動）	3.8	3.8	3.8
基準4（教育成果）	3.8	3.8	3.8
基準5（生徒支援）	3.5	3.8	3.8
基準6（教育環境）	3.7	3.8	3.8
基準7（生徒募集と受け入れ）	3.8	3.8	3.8
基準8（財務）			
基準9（法令等の遵守）			
基準10（社会貢献）	4.0	4.0	4.0

※学校関係者評価委員7名による評価の平均。
4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である

3 今後の改善意見

進路について、もう少し細かな指導がいただけるとありがたかったと思います。姉妹校以外の進路についても具体的に教えていただければ、オープンキャンパス等も参加しやすくなると思います。
進路指導において、より効果的な情報提供や相談体制を組むべきである。（進路決定率87.3%とかなり高い数字であり現状でもかなり有効にできているとは考えられる）
家庭学習についてレポート課題は概ね提出できているが、自主的な学習習慣を涵養する、あるいは外国籍・低学力の生徒のサポートをするという点では課題が残る。
新型コロナウィルス下でクラブ活動やボランティア活動、学校行事の実施が難しくなっている。
おおむね、A、B評価が多いのはすばらしいが、C、D評価について、重点的な改善をこころがけていただきたい。

4 今後の具体的な改善方策

進路については生徒がより具体的なイメージがもてるようにビデオ教材の利用や卒業生の体験談を取り入れるなどが考えられる。
自主的な学習習慣については成功事例のノウハウの積み重ね、生徒をほめて伸ばす、あるいは生徒の話を聞くなどにより、やる気、目標意識を高める。
行事は感染対策との関係で制約を受けざるをえないが、少人数に分けて実施するなど、教育の話し合いなどによって有効な方策を考える。
自己評価の低い事項については、学内だけでなく、外部からの応援ももらうとよい。